

レタスのマルチ栽培における水分管理について

田中和夫・*安井秀夫・本多藤雄
(野菜試験場久留米支場 *野菜試育種部)

TANAKA, K., YASUI, H. and HONDA, H.
On the Water Management in Lettuce Cultivation with Malch Film.

レタスのマルチ栽培における適水分範囲と、これがうねの形状によりどのように変化するかを検討した。

1. 材料および方法

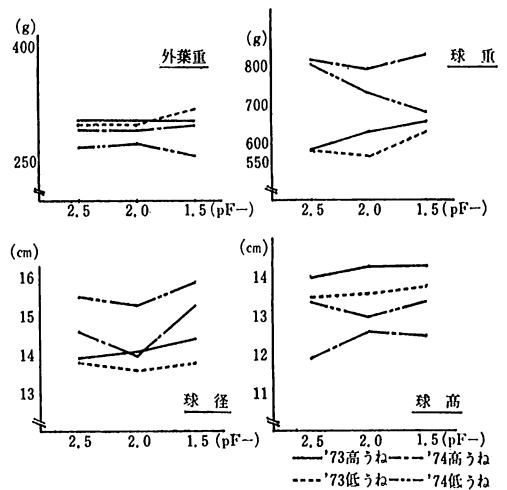
品種は‘オリンピア’を用い、'73年は8月18日は種、9月10日定植、'74年は8月13日は種、9月6日定植とした。かん水始め点 pF 2.5, 2.0, 1.5 と、うね高 10cm, 30cm との組み合わせで 6 処理区を設け、1 区 60 株を供試した。かん水の方法は、うね全面を黒色ポリフィルムでマルチし、マルチ下の角型ホースにより所定の pF に達した時、1 回当たり、13.3mm のかん水を行った。かん水処理期間は、'73 年では 9 月 27 日～10 月 26 日とし、'74 年は 9 月 24 日～10 月 24 日とした。

2. 結果および考察

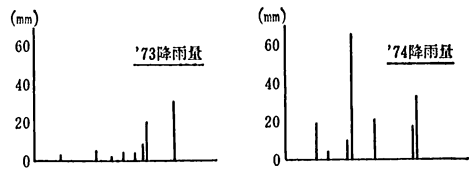
処理期間中のかん水回数は、pF 1.5 区では 1～2 日に 1 回、pF 2.0 区は 3～4 日に 1 回、pF 2.5 区は月に 1～2 回程度であった。試験期間中の降雨量は '73 年は 74.7mm, '74 年は 191.2mm であった。かん水による効果は、球重でみると、降雨の少なかった '73 年において高・低両うね区とも、かん水の多いほど増加する傾向を示したが、降雨の多かった '74 年においては、高うね区でかん水による効果がみられず、低うね区ではむしろマイナスの傾向を示した。球形については影響がみられず、異常球は裂球が pF 2.5 区に多く発生した。うね高の影響は、高うね区が表層から 20cm～40cm の根量が多く、球重も明らかに重くなる傾向がみられ、'74 年では球のしまりも良く、外葉重も増加した。

以上の結果から、レタスの適水分範囲は、かん水始め

点 pF 1.5 が優れると考えられた。ただ、降雨量が多く、かつ、低うねのように排水の悪い場合には、かん水が多いと水分過剰の影響がみられることが明らかとなった。降雨量の多少にかかわらず、高うねの効果は十分認められた。



第 1 図 生 育 結 果



第 2 図 降 雨 量

第 1 表 異 常 球 の 発 生

うね高	かん水点 pF	'73 異 常 球 (%)				'74 異 常 球 (%)				
		へん球	とがり	分球	SP ¹⁾	へん球	とがり	分球	SP ¹⁾	裂球
10	2.5	15	15	0	11	0	2	12	10	45
	2.0	17	11	6	13	0	7	12	13	18
	1.5	14	7	9	7	3	10	0	20	20
30	2.5	24	34	0	13	0	0	3	27	38
	2.0	25	13	4	6	7	3	10	25	28
	1.5	20	2	2	9	2	2	22	10	27

1) スパイラルヘッド